

肥大した茎を利用する野菜

コールラビは地中海北岸原産のアブラナ科野菜で、茎の基部が球形に肥大するので、別名を球茎甘藍（キュウケイカンラン）とも呼ばれます。キャベツから分化した野菜のため似た性質を持ちますが、キャベツより暑さや寒さに強く、作りやすい野菜です。

中間地の秋まきは、7月下旬～9月上旬に種まきし、9～12月に収穫します。春まきは3、4月にまいて、6、7月に収穫します。

【品種】

球の色が緑白の「グランドデューク」（タキイ種苗）、紫の「パープルデューク」（タキイ種苗）などがあります。

【畑の準備】

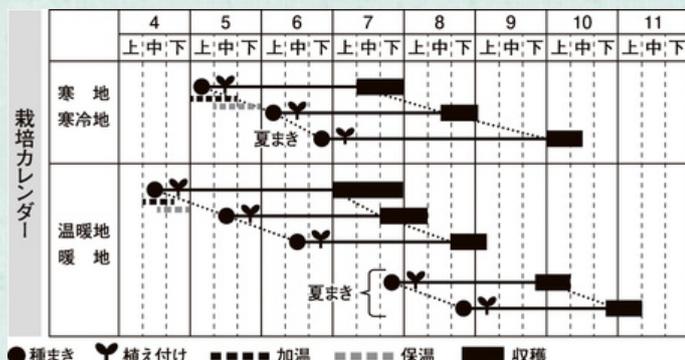
あらかじめ畑1平方mあたりに苦土石灰100gを土とよく混ぜておき、植え付け（または種まき）1週間前に畝幅70～80cm、深さ15～20cmの溝を掘ります。次に、この溝1mあたり化成肥料（NPK各成分10%程度）100gと堆肥1kg程度を施し、土を戻して畝を立てます（図1）。

【種まき・苗作り】

苗作りをするには、7・5～9cmポリポットに種を4、5粒まき、発芽後に適宜密生部を間引き、1本立ちにして本葉4、5枚まで育てます（図2）。強健な野菜なので畑にじかまきしても良いでしょう。この場合は種を2、3cm間隔にまいて、間引きながら最終株間を約20cmにします。

【植え付け】

本葉4、5枚の頃、株間を約20cmに植え付けます（図3）。このとき植え穴に十分水を注ぎ、植え傷みの少ないようにします。



【病害虫の防除】

ヨトウムシ、コナガなどが多いので、登録農薬で駆除します。生育初期は、寒冷しゃなどの防虫ネットでトンネル被覆し、害虫の被害を防ぐと良いでしょう。

【収穫】

球の直径が5～10cmのときに、株元から刈り取って収穫します（図5）。球が大きくなると肉質が堅くなります。堅い皮はむいて薄くスライスし、サラダなどにします。また、さいころ状に刻んで、スープ、ポトフなどでいただきます。

図1 畑の準備

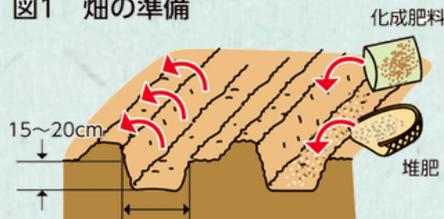


図2 種まき・苗作り

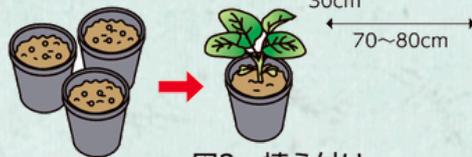


図3 植え付け

図4 追肥・土寄せ

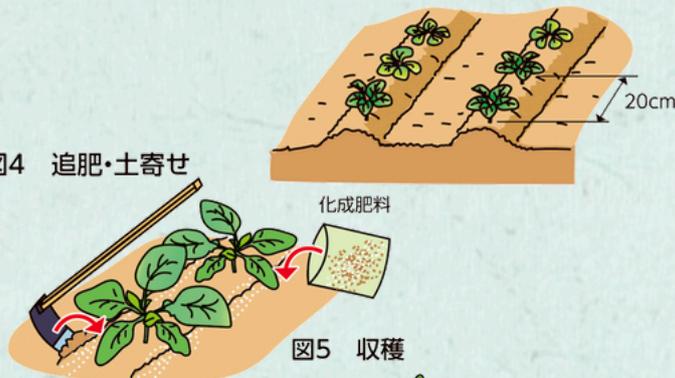


図5 収穫

